新専門医制度　神戸赤十字病院内科専門研修プログラム
地方型一般病院

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1) 本プログラムは、兵庫県神戸市医療圏の中心的な急性期病院である神戸赤十字病院を基幹施設として、兵庫県神戸市医療圏・近隣医療圏・北播磨医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て兵庫県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として兵庫県全域を支える内科専門医の育成を行います。

2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

使命【整備基準 2】

1) 兵庫県神戸市医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、1）高い倫理観を持ち、2）最新の標準的医療を実践し、3）安全な医療を心がけ、4）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、5）災害救急医療に対する使命感をもち、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

1) 本プログラムは、兵庫県神戸市医療圏の中心的な急性期病院である神戸赤十字病院を基幹施設として、兵庫県神戸市医療圏、近隣医療圏にある連携施設、北播磨医療圏の地域医療を特別連携施設とし内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は原則として基幹施設 2 年間＋連携施設・特別連携施設 1 年間の 3 年間になります。

2) 神戸赤十字病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診外来・入院、救急外来・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

3) 基幹施設である神戸赤十字病院は、兵庫県神戸市医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

4) 基幹施設である神戸赤十字病院と連携施設での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P. 75 別表 1「神戸赤十字病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

5) 神戸赤十字病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 2 年目の 1 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。

6) 基幹施設である神戸赤十字病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録できます。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします（P. 75 別表 1「神戸赤十字病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

7) 本プログラムの特徴として、特別連携施設に高度救急救命センターである兵庫県災害医療センターがあるため、希望により高度救急医療を経験することが可能です。

8) 神戸赤十字病院および兵庫県災害医療センターは 、基幹災害医療センターであることから、災害医療支援活動を任務としており、所属する医師は災害医療の研修・訓練も経験できます。

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は、1）高い倫理観を持ち、2）最新の標準的医療を実践し、3）安全な医療を心がけ、4）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

1）地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）

2）内科系救急医療の専門医

3）病院での総合内科（Generality）の専門医

4）総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

神戸赤十字病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、兵庫県神戸市医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により、神戸赤十字病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 6 名とします。

1） 神戸赤十字病院内科後期研修医は現在 3 学年併せて 14 名で 1 学年 3～7 名の実績があります.

2） 剖検体数は 2017 年 12 体、2018 年 10 体、2019 年 7 体、2020 年 4 体、2021 年 10 体、2022 年 5 体、2023 年 7 体、2024 年 4 体、2025 年 6 体です。

表. 神戸赤十字病院診療科別診療実績

2025 年度実績	入院患者実数（人/年）	外来延患者数（延人数/年）
消化器内科	1,908	19,493
循環器内科	1,235	19,711
糖尿病代謝内科	内科に含む	内科に含む
呼吸器内科	471	7,220
脳神経内科	124	1,934
内科	390	6,281

3） 糖尿病代謝内科、神経内科領域の入院患者は少なめですが、連携病院での研修で、外来患者診療を含め、1 学年 6 名に対し十分な症例を経験可能です。アレルギー疾患は呼吸器内科、救急領域の研修で経験可能です。

4） 9 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（P.17「神戸赤十字病院内科専門研修施設群」参照）。

5） 1 学年 6 名までの専攻医であれば、専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群、120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です。

6） 専攻医 2 年目に研修する連携施設には、高次機能・専門病院,地域医療の 4 施設あり、専攻医のさまざ

まな希望・将来像に対応可能です。

7）専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群、160 症例以上の診療経験は達成可能です。

3. 専門知識・専門技能とは

1）専門知識【整備基準 4】［「内科研修カリキュラム項目表」参照］

専門知識の範囲（分野）は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標（到達レベル）とします。

2）専門技能【整備基準 5】［「技術・技能評価手帳」参照］

内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1）到達目標【整備基準 8～10】（P. 75 別表 1「神戸赤十字病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

○専門研修（専攻医） 1 年

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、60 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。

・専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。

・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医とともに行うことができます。

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修（専攻医） 2 年

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群、120 症例以上の経験をし、日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録します。

・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システムへの登録を終了します。

・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます。
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医） 3 年:
・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録します。
・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。
・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます。査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。
・技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

1）専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします。日本内科学会専攻医登録評価システムにおける研修プログラムへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。
神戸赤十字病院内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

2）臨床現場での学習【整備基準 13】
内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記１）～５）参照）。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。
① 内科専攻医は，担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院〈初診・

入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。

③ 総合内科外来（初診を含む）と Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくても週 1 回、1 年以上担当医として経験を積みます。

④ 救急外来の内科担当（平日）で内科領域の救急診療の経験を積みます。

⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます。

⑥ 要に応じて、Subspecialty 診療科検査を担当します。

3）臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1）内科領域の救急対応、2）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3）標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4）医療倫理，医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5）専攻医の指導・評価方法に関する事項などについて、以下の方法で研鑽します。

① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会

② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設 2022 年度実績あり）
※ 内科専攻医は年に 2 回以上受講します。

③ CPC（基幹施設 2018 年度実績 5 回）

④ 研修施設群合同カンファレンス（2022 年度：年 2 回開催予定）

⑤ 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：HAT 呼吸器疾患検討会；2018 年度実績 2 回）

⑥ JMECC 受講（基幹施設：2025 年度開催）
※ 内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します。

⑦ 内科系学術集会（下記「7．学術活動に関する研修計画」参照）

⑧ 各種指導医講習会／JMECC 指導者講習会

など

4）自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て，安全に実施できる。または判定できる）、B（経験は少数例ですが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる）、C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに，症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した）、B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した）、C（レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています。（「研修カリキュラム項目表」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します。

① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信

② 日本内科学会雑誌にある MCQ

③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

など

5）研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準 41】

日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて、以下を web ベースで日時を含めて記録します。

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
・専攻医による逆評価を入力して記録します。
・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。
・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13, 14】

神戸赤十字病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載した（P. 18「神戸赤十字病院内科専門研修施設群」参照）、プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である神戸赤十字病院臨床研修センターが把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します。

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6, 12, 30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

神戸赤十字病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
② 科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM;evidencebasedmedicine）。
③ 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）。
④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します．併せて、

① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
② 後輩専攻医の指導を行う。
③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。

を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

神戸赤十字病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、

① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）。
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。
② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。

④　内科学に通じる基礎研究を行います。
を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。
内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者２件以上行います。
なお，専攻医が，社会人大学院などを希望する場合でも，神戸赤十字病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となるコア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

神戸赤十字病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても指導医、Subspecialty 上級医とともに下記１）～10）について積極的に研鑽する機会を与えます。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である神戸赤十字病院臨床研修センターが把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

①　患者とのコミュニケーション能力
②　患者中心の医療の実践
③　患者から学ぶ姿勢
④　自己省察の姿勢
⑤　医の倫理への配慮
⑥　医療安全への配慮
⑦　公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧　地域医療保健活動への参画
⑨　他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩　後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11, 28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。神戸赤十字病院内科専門研修施設群研修施設は兵庫県西播医療圏、北播磨医療圏、近隣医療圏の医療機関から構成されています。

神戸赤十字病院は、兵庫県神戸市医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である神戸大学附属病院、姫路赤十字病院、加古川市民病院、神戸労災病院、甲南医療センター、岡山赤十字病院、川崎医科大学総合医療センター、岡山医療センター、千船病院、宝塚市立病院、北播磨総合医療センター、大阪府済生会中津病院、神鋼記念病院、兵庫県立淡路医療センター、高槻病院、淀

川キリスト教病院、神戸市立医療センター西市民病院、神戸医療センター、日本生命病院、兵庫県災害医療センター、兵庫中央病院、および地域医療密着型病院である多可赤十字病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では、神戸赤十字病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

神戸赤十字病院内科専門研修施設群(P.18)は，兵庫県神戸市医療圏、近隣医療圏の医療機関から構成しています。通勤する距離が最も離れている姫路赤十字病院は、神戸赤十字病院から電車を利用して、1 時間程度の移動時間であり，移動や連携に支障をきたす可能性は低いです。多可赤十字病院は地域医療をその土地での生活も含めて経験する意味で医師宿舎に入っていただくことになります。

10.　地域医療に関する研修計画【整備基準 28, 29】

神戸赤十字病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

神戸赤十字病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

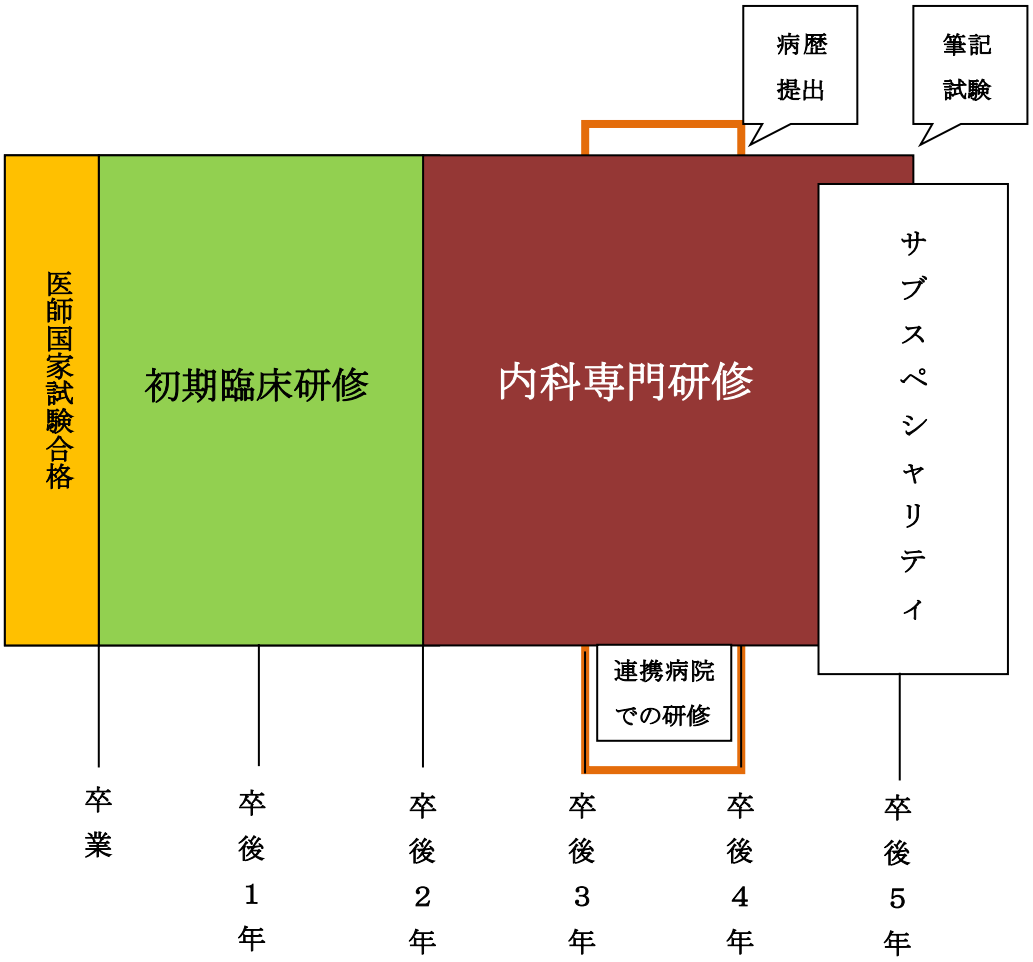
多可赤十字病院は、近隣医療機関との日常的な連携を深め、医療機関の総合力を発揮した医療を推進します。また、病院に併設した老人保健施設や各種専門職間の連携を密にし、入院・入所から在宅療養に至るまで一貫した医療・ケアの提供を行っています。

通院困難な患者には、自宅でご家族と一緒に過ごしながら療養が続けられるよう、訪問診療を行っています。

専門領域だけではなく、幅広く臨床経験を積むことができます。

11.　内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

神戸赤十字病院内科専門研修プログラム概念図



基幹施設である神戸赤十字病院内科で、１年目の専門研修（専攻医）を行い、２年目に連携施設、特別連携施設にて専門研修を行います。

専攻医２年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）３年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修（専攻医）２年目の１年間、連携施設で研修をします（図 1）。連携施設での研修になりますので、連絡、情報交換を密に行う予定です（勉強会を兼ねて集まっていただくなど）。なお、研修達成度によっては３年目に Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）。

12.　専攻医の評価時期と方法【整備基準 17, 19〜22】

（1）神戸赤十字病院臨床研修センターの役割

・神戸赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を行います。

・神戸赤十字病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システムの研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。

・3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
・年に複数回（8 月と 2 月、必要に応じて臨時に）、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システムを通じて集計され、1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促します。
・臨床研修センターは、メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に）行います。担当指導医、Subspecialty 上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから、接点の多い職員 5 人を指名し評価します．評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、臨床研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システムを通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行います。
・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割
・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が神戸赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会により決定されます。
・専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
・専攻医は、1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、60 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、120 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、160 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
・専攻医は、専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的

評価に基づき、専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

（3）評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに神戸赤十字病院内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

（4）修了判定基準【整備基準 53】

1）担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて研修内容を評価し、以下 i)～vi)の修了を確認します。

i）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録済み（P. 75 別表 1「神戸赤十字病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

ii）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

iii）所定の 2 編の学会発表または論文発表

iv）JMECC 受講

v）プログラムで定める講習会受講 vi）日本内科学会専攻医登録評価システムを用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性

2）神戸赤十字病院内科専門医研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約 1 か月前に神戸赤十字病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

（5）プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、日本内科学会専攻医登録評価システムを用います。なお、「神戸赤十字病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】（P.66）と「神戸赤十字病院内科専門研修指導医マニュアル」【整備基準 45】（P.73）と別に示します。

13.　専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34, 35, 37～39】

（P. 67「神戸赤十字病院内科専門研修管理員会」参照）

1）神戸赤十字病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i）内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者、プログラム管理者（ともに指導医）、委員長、事務局代表者、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者および連携施設担当委員で構成されます。また，オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる（P.66 神戸赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会参照）。神戸赤十字病院内科専門研修管理委員会の事務局を、神戸赤十字病院臨床研修センターにおきます。

ii）神戸赤十字病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。

委員長 1 名（指導医）は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年 6 月と 12 月に開催する神戸赤十字病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します。

基幹施設・連携施設ともに、毎年締切日までに、神戸赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会に以下の報告を行います。

① 前年度の診療実績
   a) 病院病床数、b)内科病床数、c)内科診療科数、d) 1 か月あたり内科外来患者、e)1 か月あたり内科入院患者数、f)剖検数
② 専門研修指導医数および専攻医数
   a)前年度の専攻医の指導実績、b)今年度の指導医数/総合内科専門医数、c)今年度の専攻医数、
   d)次年度の専攻医受け入れ可能人数。
③ 前年度の学術活動
   a) 学会発表、b)論文発表
④ 施設状況
   a) 施設区分、b)指導可能領域、c)内科カンファレンス、d)他科との合同カンファレンス、
   e)抄読会、f)机、g)図書館、h)文献検索システム、i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、
   j)JMECC の開催。
⑤ Subspecialty 領域の専門医数
   日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18, 43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を活用します。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修（FD）の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システムを用います。

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

専門研修（専攻医）1 年目は基幹施設である神戸赤十字病院の就業環境に、専門研修（専攻医）2 年目場合により 3 年目の一部は連携施設もしくは特別連携施設の就業環境に基づき、就業します（P.17「神戸赤十字病院内科専門研修施設群」参照）。

基幹施設である神戸赤十字病院の整備状況：

- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- 神戸赤十字病院常勤嘱託医師として労務環境が保障されています。
- メンタルストレスに適切に対処する人員（心療内科医）があります。
- ハラスメント委員会が院内に整備されています。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。

・敷地外の契約保育所を利用予定。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、P.17「神戸赤十字病院内科専門施設群」を参照. また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は神戸赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、神戸赤十字病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス専門研修施設の内科専門研修委員会、神戸赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、神戸赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します.

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

・担当指導医、施設の内科研修委員会、神戸赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は、日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、神戸赤十字病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して神戸赤十字病院内科専門研修プログラムを評価します。

・担当指導医、各施設の内科研修委員会、神戸赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立てます。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます。

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

神戸赤十字病院臨床研修センターと神戸赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会は、神戸赤十字病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じて神戸赤十字病院内科専門研修プログラムの改良を行います。

神戸赤十字病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17.　専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は、website での公表や説明会などを行い、内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は、神戸赤十字病院臨床研修センターの website の神戸赤十字病院医師募集要項（神戸赤十字病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します。書類選考および面接を行い、神戸赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知します。

（問い合わせ先）　神戸赤十字病院臨床研修センター　E-mail:r-senmoni@kobe.jrc.or.jp

神戸赤十字病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システムにて登録を行います。

18.　内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

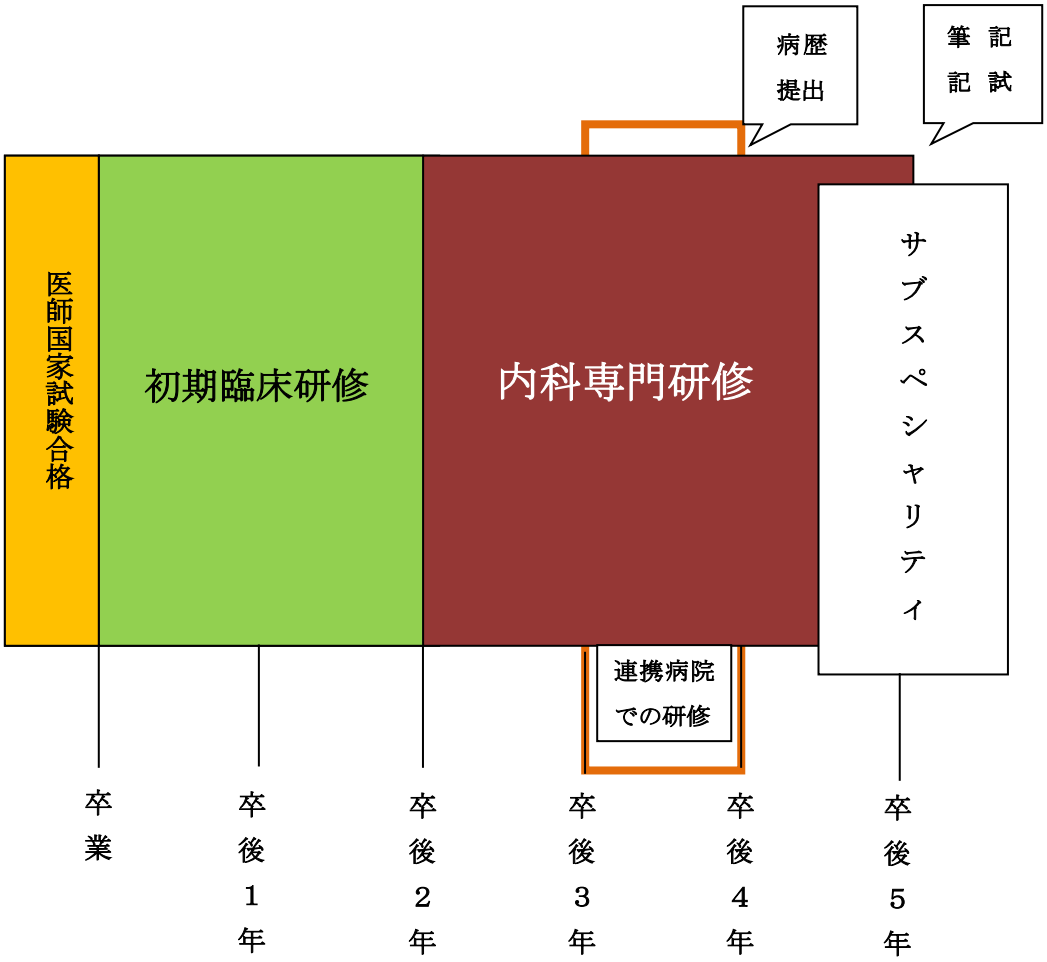
やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて神戸赤十字病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、神戸赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから神戸赤十字病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から神戸赤十字病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに神戸赤十字病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、日本内科学会専攻医登録評価システムへの登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠･出産､産前後に伴う研修期間の休止については､プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1 日 8 時間，週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって、研修実績に加算します。留学期間は、原則として研修期間として認めません。

19.　神戸赤十字病院内科専門研修施設群研修期間：３年間（基幹施設２年間＋連携施設、特別連携施設１年間）【整備基準 16】

神戸赤十字病院内科専門研修プログラム概念図



基幹施設である神戸赤十字病院内科で、１年目の専門研修（専攻医）を行い、2 年目、3 年目の一部に連携施設、特別連携施設にて専門研修を行います。

専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）3 年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修（専攻医）２年目の１年間、連携施設で研修をします（図 1)。連携施設での研修になりますので、連絡、情報を密に行う予定です（勉強会を兼ねて集まっていただくなど)。なお、研修達成度によっては 3 年目に Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります)。

神戸赤十字病院内科専門研修施設群研修施設

表１．各施設の概要

	病院	病床数	内科系診療科数	内科指導医数	内科剖検数
基幹施設	神戸赤十字病院	310	7	21	6
連携施設	神戸大学附属病院	934	11	85	18
連携施設	姫路赤十字病院	560	10	17	12
連携施設	加古川中央市民病院	600	10	43	10
連携施設	神戸労災病院	316	7	13	9
連携施設	甲南医療センター	461	8	28	3
連携施設	岡山赤十字病院	500	11	11	11
連携施設	川崎医科大学総合医療センター	647	3	20	10
連携施設	NHO 岡山医療センター	609	11	37	10
連携施設	千船病院	292	8	11	2
連携施設	宝塚市立病院	436	9	19	4
連携施設	北播磨総合医療センター	450	9	28	9
連携施設	大阪府済生会中津病院	670	10	42	14
連携施設	神鋼記念病院	333	9	23	13
連携施設	兵庫県立淡路医療センター	402	6	14	10
連携施設	高槻病院	477	11	16	4
連携施設	淀川キリスト教病院	581	11	29	5
連携施設	神戸市立医療センター西市民病院	358	10	18	6
連携施設	神戸医療センター	304	9	18	4
連携施設	日本生命病院	350	7	16	4
連携施設	日立総合病院	611	12	21	
連携施設	関西医科大学附属病院	797	21	51	10
特別連携施設	兵庫県災害医療センター	30	3	0	1
特別連携施設	多可赤十字病院	110	1	2	
特別連携施設	兵庫中央病院	500	6		

表２．各内科専門研修施設の内科１３領域の可能性

	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
神戸赤十字病院	△	○	○	△	○	△	○	△	○	△	△	△	○
神戸大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△
姫路赤十字病院	○	○	○	△	△	○	○	○	×	△	○	△	○
加古川中央市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸労災病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
甲南医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
岡山赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
川崎医科大学総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
NHO 岡山医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
千船病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	○
宝塚市立病院	○	○	○	△	△	○	○	○	△	○	○	○	○
北播磨総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪府済生会中津病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神鋼記念病院	○	○	○	△	○	△	○	○	○	△	○	△	○
兵庫県立淡路医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高槻病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	△	△	○	○
淀川キリスト教病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸市立医療センター西市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本生命病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日立総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	×	△	△
関西医科大学附属病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	△	○
兵庫県災害医療センター	×	×	△	×	×	×	×	×	△	×	×	△	○
多可日赤病院	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
兵庫中央病院	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。神戸赤十字病院内科専門研修施設群研修施設は兵庫県および岡山県内の医療機関から構成されています。

神戸赤十字病院は、兵庫県神戸市医療圏の中心的な急性期病院です。そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設・特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、神戸大学附属病院、姫路赤十字病院、加古川中央市民病院、神戸労災病院、甲南医療センター、岡山赤十字病院、川崎医科大学総合医療センター、NHO 岡山医療センター、千船病院、宝塚市立病院、北播磨総合医療センター、大阪府済生会中津病院、神鋼記念病院、兵庫県立淡路医療センター、高槻病院、淀川キリスト教病院、神戸市立医療センター西市民病院、神戸医療センター、日本生命病院、日立総合病院、関西医科大学附属病院、兵庫県災害医療センター、多可赤十字病院、兵庫中央病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。

地域基幹病院では、神戸赤十字病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

・専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像, 研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定します。

・病歴提出を終える専攻医２年目の１年間、連携施設・特別連携施設で研修をします。なお、研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります)。

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

兵庫県神戸市医療圏と近隣医療圏、北播磨医療圏にある施設から構成しています。通勤で最も距離が離れている姫路赤十字病院は、神戸赤十字病院から電車を利用して 1 時間程度の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は低いです。多可赤十字病院は地域医療をその土地での生活も含めて経験する意味で医師宿舎に入っていただくことになります。

専門研修基幹施設

施設名　　神戸赤十字病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度教育病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神戸赤十字病院常勤嘱託医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（心療内科）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性医師が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 21 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者、プログラム管理委員会委員長）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（HAT 呼吸器疾患検討会等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち全分野（少なくとも７分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（すくなくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研修必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理委員会を設置し、随時受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	土井智文　副院長 【内科専攻医へのメッセージ】 神戸赤十字病院は兵庫県神戸市医療圏の中心的な急性期病院であり、西播医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院まで啓示的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整も包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 1 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名

	日本消化器内視鏡学会専門医５名 日本神経学会神経内科専門医２名 日本糖尿病学会専門医１名 日本臨床神経生理学会専門医１名 日本脳卒中学会専門医１名 日本認知症学会専門医１名 日本救急医学会救急科専門医２名　など
外来・入院患者数	外来患者　511.0名（前年度１日平均患者数） 入院患者　241.3名（前年度１日平均患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある１３領域、７０疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる医療・地域医療・診療連携	急性期疾患だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本神経学会認定准教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本心療内科学会専門医研修施設 日本心身医学会認定医制度研修診療施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本リウマチ学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設　など

2) 専門研修連携施設

1. 神戸大学医学部附属病院

認定基準 1) 専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書館とインターネット環境があります. ·医学部附属病院研修中は、医員として労務環境が保障されます. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があり、ハラスメント委員会も整備されています. ·女性専攻医のための更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，病院職員としての利用が可能です（但し、数に制限あることと事前に申請が必要です）.
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 85 名在籍しています. ·内科専攻医研修委員会を設置し，施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を職員必須講習として年２回開催し専攻医にも受講を義務付けます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており，専攻医に特定数以上の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で約 25 演題の学会発表をしています.
指導責任者	坂口一彦 （糖尿病・内分泌・総合内科学分野） 【内科専攻医へのメッセージ】神戸大学医学部附属病院内科系診療科は，連携する関連病院と協力して，内科医の人材育成や地域医療の維持・充実に向けて活動を行っていきます．医療安全を重視し，患者本位の標準的かつ全人的な医療サービスが提供でき，医学の進歩にも貢献できる責任感のある医師を育成することを目指します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 85 名，　日本内科学会総合内科専門医 80 名 日本消化器病学会消化器専門医 42 名　日本肝臓学会肝臓専門医 12 名， 日本循環器学会循環器専門医 21 名　日本内分泌学会専門医 18 名， 日本糖尿病学会専門医 29 名　日本腎臓病学会専門医 11 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 10 名　日本血液学会血液専門医 10 名 日本神経学会神経内科専門医 7 名　日本アレルギー学会専門医（内科）3 名， 日本リウマチ学会専門医 11 名　日本感染症学会専門医 6 名 日本救急医学会救急科専門医 6 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者　延べ数 18,540 名　実数 839 名（内科のみの 1 ヶ月平均） 入院患者　延べ数 5,997 名　実数 465 名（内科のみの 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができますが，大学病院での研修は短期間なので，希望により研修科を選択いただきます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる医療・地域医療・診療連携	急性期医療はもちろんですが、内科医にとって必須である地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．大学病院ならではの専門・最先端医療も是非経験いただきたいと考えています.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会総合内科専門医認定教育施設 日本臨床検査医学会臨床検査専門医認定病院 日本消化器病学会消化器病専門医認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修

	日本呼吸器学会呼吸器専門医認定施設 日本血液学会血液専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本糖尿病学会糖尿病専門医認定教育施設 日本腎臓学会腎臓専門医研修施設 日本肝臓学会肝臓専門医認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本感染症学会感染症専門医研修施設 日本老年医学会老年病専門医認定施設 日本神経学会神経内科専門医教育施設 日本リウマチ学会リウマチ専門医教育施設 日本集中治療医学会集中治療専門医専門医研修施設

２．姫路赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・ 姫路赤十字病院非常勤医師として労務環境が保障されています. ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります. ・ ハラスメント委員会が整備されています. ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・ 敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 17 名在籍しています. ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2016 年度予定）を設置します. ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2017 年度実績 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ CPC を定期的に開催（2020 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会，姫路市救急医療合同カンファレンス，姫路循環器談話会，姫路呼吸器研究会，姫路消化器病研究会等）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 当プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・ 臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます. ・ 研修に必要な剖検(2019 年度実績 8 体，2018 年度実績 12 体、2017 年度実績 11 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室を整備しています. ・ 医中誌，PubMed，Clinical Key、Cochrane Library，DynaMed，UpToDate，今日の診療など文献検索，データベース，医療情報に加え、ジャーナル（和雑誌 108 誌、洋雑誌 81 誌購読）を取り揃えています. ・ UpToDate anywhere を自宅 PC や mobile 機器で，いつでも，どこでも，何時間でも利用できます. （但し、通信費用は自己負担です） ・Clinical Key：1,100 以上の書籍・教科書、600 以上のジャーナル、17,000 以上の医療動画など豊富な医療情報を入手できます。 ・ 倫理委員会を設置し，定期的に開催（2019 年度実績 12 回）しています. ・ 治験管理室を設置し，定期的に自主研究・受託研究審査会を開催（2019 年度実績 6 回）しています. ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に積極的に発表しています。（2019 年度実績 3 演題）

	・subspecialty 学会　講演会に積極的に発表しています（2019 年度実績 20 演題）.
指導責任者	向原直木 【内科専攻医へのメッセージ】 姫路赤十字病院は，兵庫県はりま姫路医療圏の中心的な急性期病院であり，消化器、肝臓、循環器、血液、呼吸器、膠原病、腎臓、糖・代謝・内分泌、消化器内視鏡の専門診療を積極的に展開しています。 本プログラムの連携施設として，上記領域の専門診療並びに内科救急疾患診療を研修することにより，質の高い、幅広い診療領域に通じた、地域に根差した医療を実践できる内科専門医を育成することを目指しています。 姫路赤十字病院では、主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉までを通じて、確かな診断・治療はもとより、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医となれるように、しっかり指導します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 17 名　　日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名　　日本肝臓学会肝臓専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名　　日本糖尿病学会専門医 1 名 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名　　日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 4 名　　日本アレルギー学会専門医（内科）1 名 日本リウマチ学会専門医 2 名　　日本消化器内視鏡学会専門医　6 名
外来・入院患者数	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. 内科・循環器内科外来患者 358 名（1 日当り） 内科・循環器内科入院患者 190 名（1 日当り）
経験できる 疾患群	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群、200 疾患の症例を幅広く経験することができます.
経験できる 技術・技能	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる 地域医療･診療連携	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. 急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
認定・指定	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院　　・ 地域医療支援病院 ･地域がん診療連携拠点病院（高度型）　　・がんケノム医療連携病院 ･災害拠点病院　　･日本医療機能評価機構認定病院 ･各学会認定（内科関連） 日本内科学会認定医制度教育病院　　日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会認定施設　　日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設　　日本血液学会認定血液研修施設 日本アレルギー学会認定準教育施設　　日本リウマチ学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設　日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本放射線腫瘍学会認定協力施設　　日本緩和医療学会認定研修施設 日本ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾅﾙﾗｼﾞｵﾛｼﾞｰ学会(日本 IVR 学会)専門医修練認定施設 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設　　日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ治療学会認定研修関連施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設　　など

３．加古川中央市民病院

1）専攻医の環境 【整備基準 24】	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・加古川中央市民病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事部）があります。 ・ハラスメント委員会が人事部に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2） 専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	・日本内科学会指導医は 43 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し（各複数回開催）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設が定期的に主催する研修施設群合同カンファレンスに参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（実績：2022 年度 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し（東播磨地域ネットワーク研究会→年 3 回、循環器懇話会→年 2 回中 1 回カンファレンス形式開催、在宅連携事例検討会→年 3 回 他）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3）診療経験の環境 【整備基準 24】	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。
4）学術活動の環境 【整備基準 24】	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床研究・治験センターを設置しています。また治験審査委員会を設置し定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方に年間で計３演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	西澤　昭彦 【内科専攻医へのメッセージ】 加古川中央市民病院は 600 床を有する神戸以西で最大規模の総合病院で、充実した診療科を揃えて地域の急性期医療を担う中心的存在となっています。各内科領域の専門医が多く在籍しているため内科専門医・サブスペシャリティ専門医取得への質の高い研修ができます。救急診療、高度専門診療のみならず、一般的な内科診療も研修することができ、内科医としての総合力が身につきます。また、地域医療を担う一医師として患者さんや周辺医療施設・院内スタッフにも信頼されるよう頑張ってほしいと思います。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 43 名、日本内科学会総合内科専門医 31 名、日本消化器病学会消化器専門医 12 名、日本循環器学会循環器専門医 18 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本肝臓学会肝臓専門医 6 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 6 名、日本感染症学会専門医 1 名ほか（以上内科所属に於いて）
外来・入院 患者数	外来患者 30,220 名（病院全体 1 ヶ月平均） 入院患者 15,605 名（病院全体 1 ヶ月平均）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本アレルギー学会教育施設、日本老年医学会専門医制度認定施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本動脈硬化学会専門医制度教育施設、日本高血圧学会認定研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設、日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本血液学会血液研修施設、日本リウマチ学会認定研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本神経学会准教育施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設　など

４．神戸労災病院

認定基準 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書館とインターネット環境があります. ･研修中は、原則神戸労災要員常勤嘱託医師として労務環境が保証されます。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）があり、ハラスメント委員会も整備されています. ･女性専攻医のための更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地外に契約保育所があり，病院職員としての利用が可能です（但し、数に制限あることと事前に申請が必要です）.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 16 名在籍しています. ･医師臨床研修管理委員会を設置し，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医にも受講を義務付けます. ･CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており，専攻医に特定数以上の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 3 演題の学会発表をしています.
指導責任者	佐藤　稔　（総合内科） 【内科専攻医へのメッセージ】臨床医には、心(Humanity:豊かな人間性）、技（Art：臨床技能）、知(Physician Scientist:科学的思考能力）の三者が求められています。神戸労災病院では、個々の症例において、そこで起こっていることを丁寧に科学的に考察していきながら、ひとり一人の患者さんやその家族に真剣に向き合うことが、心技体の体得に重要であるとの認識を持ち、研修医指導にあたっています。 また、医学の進歩にも貢献できる責任感のある医師を育成することを目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 13 名，日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会専門医 8 名，日本消化器内視鏡学会専門医 6 名, 日本循環器学会専門医 10 名，日本糖尿病学会専門医 2 名, 日本肝臓学会専門医 3 名，日本動脈硬化学会専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 4,001 名（内科のみの 1 ヶ月平均）入院患者 3,126 名（内科のみの 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができますが，大学病院での研修は短期間なので，希望により研修科を選択いただきます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる医療・地域医療・診療連携	急性期医療はもちろんですが、内科医にとって必須である地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．大学病院ならではの専門・最先端医療も是非経験いただきたいと考えています.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育病院　　日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本高血圧学会認定施設　　日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設　　日本糖尿病学会教育関連施設 日本消化器病学会認定施設　　日本動脈硬化学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設　　日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼動施設　　日本腎臓学会認定教育施設

５．甲南医療センター

認定基準 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境（Wi-Fi)があります。 ･甲南医療センター常勤医として労務環境が保障されます。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（院内　心の相談窓口・公認心理士師/臨床心理士）があります。 ･ハラスメント委員会が（職員暴言・暴力担当窓口）が甲南医療センター内（総務部・安全衛生課）に設置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 28 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、連携施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を職員必須講習として定期的に開催し、 医療倫理講習会（2025 年度 1 回)、医療安全講習会（2025 年度 15 回)、感染対策講習会（2025 年度 3 回）を開催し専攻医にも受講を義務付けます。 ･CPC を定期的に開催し（2025 年度 3 回)、専攻医に受講を義務付け、そのため時間的余裕を与えます。 ･地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており専攻医に特定数以上の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちいずれかの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度 3 体）を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、教育研修センターなどを設置しています。 ・倫理委員会を設置しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしており、関連学会での発表も定期的に行っています。 ・学術集会への参加を奨励し、学術集会参加費・出張費を支給しています。
指導責任者	小別所　博（脳神経内科） 【内科専攻医へのメッセージ】 甲南病院は 1934 年に眺望のすばらしい阪急御影の山手に開院され、以後地域の基幹病院として地域医療に貢献してきました。 建物の老朽化もあり 2017 年より建て替え工事がはじまり、1 期工事の終了した 2019 年 10 月より六甲アイランド病院と統合され、甲南医療センターとして新しい一歩を踏み出しました。2022 年春には 2 期工事が完工しグランドオープンを迎えました。 中でも救急医療はこれまで以上に力を入れ、年間約 6000 台（1 日平均 17 台）の救急車を受け入れています。 2023 年 4 月より神戸大学から内科的思考に優れた救急専門医を迎え入れ、現在では常勤医 3 名となり、救急医療だけでなく集中医療の指導体制も整いました。 ハード面でもソフト面でも新しくなった当院で是非いっしょに内科専門研修をスタートさせましょう。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 28 名 日本内科学会総合内科専門医 24 名 日本消化器病学会消化器専門医 12 名 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名 日本肝臓学会肝臓専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本呼吸器呼吸器学会呼吸器専門医 4 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本腎臓学会専門医 4 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本臨床腫瘍学会腫瘍専門医 1 名 日本緩和医療学会専門医 2 名ほか
外来・入院患者数	（病院全体） 外来患者 17,233 名（1 ヶ月あたり）入院患者 10,922 名（1 ヶ月あたり） （内科全体） 外来患者 6,883 名（1 ヶ月あたり）入院患者　5,743 名（1 ヶ月あたり）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の大部分の症例を経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる医療・地域医療・診療連携	急性期医療はもちろんですが、内科医にとって必須である地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベーション治療学会研修関連施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 I 日本緩和医療学会基幹施設 日本血液学会血液研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設） 日本神経学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定連携施設（基幹病院：神大病院） 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

6．岡山赤十字病院

認定基準 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・ 岡山赤十字病院シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ・ ハラスメント委員会が院内に整備されています. ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・ 敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	• 指導医が 11 名在籍しています（下記）。 • 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、プログラム管理委員会と連携を図ります。 • 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 : 医療安全２回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • ＣＰＣ を定期的に開催（2025 年度実績５回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間 的余裕を与えます。 • 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務 付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域１３の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	佐久川　亮 【内科専攻医へのメッセージ】　岡山赤十字病院は、岡山県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に当院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数　（常勤医）	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 21 名、日本消化器病学会指導医２名、日本消化器病学会専門医６名、日本消化器内視鏡学会指導医４名、日本消化器内視鏡学会専門医５名、日本炎症性腸疾患学会指導医１名、日本炎症性腸疾患学会専門医１名、日本胆道学会指導医２名、日本膵臓学会指導医１名、日本肝臓学会指導医１名、日本肝臓学会専門医１名、日本血液学会血液指導医２名、日本血液学会血液専門医４名、日本呼吸器学会指導医３名、日本呼吸器学会専門医４名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医１名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医１名、日本循環器学会認定循環器専門医４名、日本内分泌代謝・糖尿病内科領域専門研修指導医１名、日本糖尿病学会研修指導医１名、日本糖尿病学会専門医３名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医１名、日本腎臓学会腎臓専門医１名、日本ﾘｳﾏﾁ学会指導医１名、日本ﾘｳﾏﾁ学会専門医１名、日本脳卒中学会指導医１名、日本脳卒中学会専門医１名　ほか
外来・入院 患者数	外来患者 83,155 名（令和７年度年間延数） 入院患者 6,467 名（令和７年度年間延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。

経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電図学会認定不整脈心電図専門医研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設

7．川崎医科大学総合医療センター

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修病院基幹型研修指定病院で、NPO法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定施設です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･川崎医科大学総合医療センター常勤職員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ･ハラスメント委員会（暴言、暴力の窓口）が院内に設置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。女性専攻医専用の更衣室、休憩室も完備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医20名(総合内科専門医16名)が在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会（5 名）を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（平成29年度実績　医療安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。医療倫理については、川崎医科大学・同附属病院倫理委員会主催の「医学系研究者の倫理的配慮・書類記載報に関する教育研修会」を年4回開催しており、「We are hospital staffs－医療現場と倫理に基づく行動」、「医療倫理の4原則と事例検討法」、「宗教上の理由による輸血拒否と医療倫理」「医療者にとって必要な法と臨床倫理の知識」の講習を受けました。 ･CPC を定期的に開催（平成28年度は実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･JMECCについては平成27年度から連携施設の川崎医科大学附属病院において共同で開催しています。当院には3名の内科指導医がインストラクターの資格を有し、平成30年度からは当院でも少なくとも年1回は開催予定です。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、腎臓、代謝、血液、神経、感染症、アレルギーおよび救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･内科系剖検体数は平成26年度4体、平成27年度15体、平成28年度10体、で、専門研修に必要な剖検数を得られる予定です。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会中国地方会に平成26年度2題、平成27年度8演題、平成28年度11演題、3年間で計21演題を発表しています。
指導責任者	瀧川奈義夫 【内科専攻医へのメッセージ】 川崎医科大学は、岡山県の中核市である倉敷市内に附属病院、そして政令指定都市である岡山市内に当院を有しています。当院は、一般医療および救急医療から、大学附属病院としての高度専門医療および緩和医療まで広く地域に貢献している急性期病院です。多くの大学附属病院では内科学が専門別あるいは臓器別に診療されることが多いですが、当院では 4 つの総合内科学教室が実践的な内科診療を行っています。すなわち、一般診療を高いレベルで行う総合内科医として全人的医療をするとともに、各分野の専門医として治療を行っています。そのため、総合内科専門医の取得とともにsubspecialtyの道へもスムーズに移行できます。
指導医数	日本内科学会指導医　20名、日本内科学会総合内科専門医　16名、

（常勤医）	日本呼吸器学会呼吸器専門医５名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医３名、 日本血液学会専門医２名、日本結核病学会専門医１名、日本感染症学会専門医２名、 日本腎臓学会腎臓専門医２名、日本透析医学会専門医２名、日本神経学会専門医１名、 日本糖尿病学会専門医２名、日本頭痛学会専門医１名、日本肝臓学会専門医２名、 日本消化器病学会消化器専門医５名、日本消化器内視鏡学会専門医５名、 日本循環器学会循環器専門医４名、日本高血圧学会高血圧専門医１名、 日本心血管インターベンション治療学会認定医１名、 日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医２名、日本緩和医療学会専門医１名、ほか
外来・入院患者数	平成 28 年度の内科系外来患者数は 51,344 名（うち救急外来患者は 4,850 名）、内科系入院患者 3,045 名でした。
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、稀な疾患を除けば幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域の開業医等を対象としたセミナーや研修会を開催するなど、病診連携 体制を強化すると同時に、急性期医療を脱した患者の逆紹介を推進し、地域社会との共存共栄を図りながら連携を推進することができます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本呼吸器学会認定施設、 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本腎臓学会研修施設、 日本透析医学会教育関連施設、日本緩和医療学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設、日本神経学会准教育施設、 日本東洋医学会研修施設、日本感染症学会研修施設、 日本肝臓学会認定施設、日本胆道学会指導施設、 日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、 日本循環器学会専門医研修施設、日本高血圧学会専門医認定施設、 日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定機構認定研修施設、 日本緩和医療学会認定研修施設、日本脳卒中学会研修教育病院

8．NHO 岡山医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・独立行政法人国立病院機構常勤医師（期間職員）として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ・ハラスメント防止対策委員会が院内に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 37 名在籍しています（下記）. ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，プログラム管理者（ともに指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と岡山医療センター専門医研修室を設置しています. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（年間実績合計 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（年間実績 11 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（岡山県緩和ケア研修会，呼吸器キャンサーボード，消化器キャンサーボード，内視鏡カンファレンス）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に岡山医療センター専門医研修室が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 11 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 60 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ・専門研修に必要な剖検(内科系：2018，2019，2020，2021，2022，2023，2024，2025 年度実績はそれぞれ 13，10，19，13，10，14，16，10 体)を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ・臨床研究審査委員会を設置し，定期的に開催（年間実績 10 回）しています. ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（年間実績 10 回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 14 演題）をしています.
指導責任者	太田　康介 【内科専攻医へのメッセージ】 岡山医療センターは，岡山県南東部医療圏の中心的な急性期総合病院です．高度な医療を実施し，さらに地域の基幹病院として地域医療を担っています．ほぼ全ての急性期の診療を実施し，院内で医療を完結しています．特に内科は，ほとんどの分野に専門医が揃い一般内科から専門性の高い疾患まですべてに対応可能な体制で診療・教育を行っています．我々は，幅広い知識・技能を備え，地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指しています．ぜひ当院で内科医の実力を大きく伸ばしましょう.
指導医数	日本内科学会指導医 37 名，日本内科学会総合内科専門医 27 名，

（常勤医）	日本消化器病学会消化器専門医 5 名，日本肝臓学会専門医 4 名， 日本循環器学会循環器専門医 9 名，日本腎臓病学会専門医 3 名， 日本糖尿病学会専門医 4 名，日本内分泌学会専門医 2 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名，日本血液学会血液専門医 6 名， 日本神経学会神経内科専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 1 名， 日本感染症学会専門医 1 名，日本消化器内視鏡学会 5 名，日本臨床腫瘍学会専門医 3 名
外来・入院患者数	外来患者 14,777 名（1 ヶ月平均）　入院患者 1,335 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本専門医機構専門医制度専門研修プログラム認定施設（内科） 日本専門医機構専門医制度専門研修プログラム認定施設（総合診療科） 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定専門研修認定施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本肺癌学会教育認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 非血縁者間骨髄採取認定施設 非血縁者間骨髄移植認定施設 日本甲状腺学会認定専門医施設認定 日本認知症学会教育施設認定 日本消化管学会　胃腸科指導施設認定 日本胆道学会認定指導施設 日本リウマチ学会教育施設認定 日本カプセル内視鏡学会指導施設認定 日本感染症学会研修施設認定 日本緩和医療学会認定研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本病院総合診療医学会認定施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設

	日本心エコー図学会認定心エコー図専門医制度研修関連施設認定など

9．社会医療法人愛仁会　千船病院

認定基準 【整備基準23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･千船病院常勤医師として，法人の規定に則り労務環境が保障されています. ･メンタルストレスおよびハラスメントに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります. ･女性専攻医も安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･隣接地（徒歩約2分）に院内保育所があり，事前手続きにより利用可能です.
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は11名在籍しています. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理するプログラム管理委員会と研修委員会，それをサポートする診療部支援室を設置しています. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療倫理1回，医療安全2回，感染対策2回），専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（過去実績5-8回/年）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催（2021年度実績21回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･特別連携施設（日高クリニック）の専門研修では，電話やメール，週1回程度の千船病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います. ･日本専門医機構による施設実地調査に，診療部支援室とプログラム管理委員会とで対応します.
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，脳神経，呼吸器，感染症および救急で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70疾患群のうち35以上の疾患群が研修可能です. ・専門研修に必要な剖検（過去実績5-13件/年）を行っています.
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ･倫理委員会および治験管理委員会を定期的に開催しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています
指導責任者	尾崎　正憲（内科教育責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 当院のプログラムの目指す内科医像は，総合内科的な力を有するサブスペシャリティ医，病院総合内科医、さらに地域医療の第一線で活躍するプライマリ・ケア医を育成することを目標としています．そのため1年目ではできるだけ幅広く各内科で研修を行い，2年目以降にサブスペシャリティ研修を並行して行うことを基本にしていますが，各専攻医の希望を聞いて柔軟に研修を行えるよう配慮しています．また専攻医が早期に技術が習得できるよう，多くの症例の処置や手術が行えるよう配慮しています．さらに学会発表や論文作成の指導を懇切丁寧に行います.
指導医数	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名、日本消化器病学会消化器病

（常勤医）	専門医 6 名、日本消化器内視鏡学会専門医 4 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本透析医学会専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 1 名、日本動脈硬化学会認定動脈硬化専門医 1 名、日本病院総合診療医学会認定医 3 名
外来・入院患者数	外来患者 5,250 名（1 ヶ月平均）　入院患者 216 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例の多くを幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本肝臓学会肝臓専門医制度特別連携施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本腎臓学会認定教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本呼吸器学会連携施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本動脈硬化学会専門医教育病院

１０．宝塚市立病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度教育関連病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神戸赤十字病院常勤嘱託医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（経営統括部職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が宝塚市役所に整備されています。 ・女性医師が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、 シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 19 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（専門研修プログラム責任者宮島部長、副専門研修プログラム責任者田中弘教）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を 義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間 的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（内科症例カンファレンス等）を定期的 に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます（年 1 回院内で開催）。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）に ついて研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研修必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理委員会を設置し、随時受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	責任者名(所属)　宮島透診療部長（循環器内科） 【内科専攻医へのメッセージ】 宝塚市立病院は兵庫県二次医療圏である北阪神地区の中心的な急性期病院であり、 北阪神地区および近畿医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じ適切な処置のできる、兵庫県全域を支える内科専門医の育成を目指します。
指導医数 （常勤医）	内科学会指導医 19 名 内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名 日本消化器内視鏡学会専門医 7 名 日本肝臓病学会専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本内分泌学会専門医 1 名 日本血液病学会専門医 2 名 日本リウマチ学会専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医 1 名

	日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医３名 日本感染症学会専門医１名 日本救急医学会救急科専門医３名
外来・入院患者数	外来患者　6837.２名（内科のみの１ヶ月平均） 入院患者　371.０名（内科のみの１ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる医療・地域医療・診療連携	急性期疾患だけでなく、超高齢化社会に対応する地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本消化器病学会指導医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本カプセル内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本感染症学会連携研修施設　など

１１．北播磨総合医療センター

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・北播磨総合医療センター常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ハラスメント防止委員会が設置されており、各種ハラスメントに対処しています。 ・メンタルストレスについては、経営管理課が窓口となり、院内に臨床心理士及び産業医を配置し対処しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に 24 時間利用可能な院内保育所があり、平日 8 時から 18 時は病児保育にも対応しています。 ・宿舎は、病院敷地内宿舎若しくは三木市・小野市エリアで、単身用借上宿舎の提供又は住居手当による対応を予定しています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	指導医は 28 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）（総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている内科専門研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設に研修する専攻医の専門研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2020 年度実績 8 回、2021 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（北播磨総合内科セミナー、北播磨消化器循環器連携懇話会、北播磨病診連携講演会、北播磨 Vascular Meeting など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（毎年度 1 回開催予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
指導責任者	責任者名(所属)　　安友　佳朗 副院長 【内科専攻医へのメッセージ】 北播磨総合医療センターは、「患者にとって医療機能が充実し、安心して医療を受けられること」また「医師、技師、看護師などの医療人にとって人材育成能力が高く、やりがいがあり、働き続けられる環境であること」など、「患者にとっても、医療人にとっても魅力ある病院となること」を目指して 2013 年 10 月に開院した新しい病院です。 教育熱心な指導医のもと内科全般の主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉までの診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成を病院全体で支えます。
指導医数 （常勤医）	・日本内科学会指導医 28 名　　・日本内科学会総合内科専門医 27 名 ・日本消化器病学会消化器病専門医 9 名 ・日本循環器学会循環器専門医 10 名 ・日本糖尿病学会専門医 3 名　　・日本腎臓学会腎臓専門医 4 名 ・日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名　　・日本血液学会血液専門医 3 名 ・日本神経学会神経内科専門医 5 名　　・日本リウマチ学会専門医 5 名

	・日本内分泌学会専門医２名　　・日本救急医学会救急科専門医３名 ・日本感染症学会感染症専門医２名　　ほか
外来・入院患者数	外来患者　約1,056名（1日平均）　入院患者　約350名（1日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる医療･地域医療･診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	・日本内科学会認定医制度教育病院　　・日本老年医学会認定施設 ・日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ　　・日本内分泌学会認定教育施設 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ・経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設 ・日本消化器病学会専門医制度認定施設 ・日本消化器内視鏡学会指導施設　　・日本血液学会専門研修認定施設 ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設　　・日本腎臓学会認定教育施設 ・日本透析医学会教育関連施設　　・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本神経学会専門医制度教育施設 ・日本脳卒中学会研修教育病院 ・日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 ・日本脈管学会研修指定施設 ・日本リウマチ学会リウマチ教育施設 ・日本リハビリテーション医学会研修施設 ・日本認知症学会専門医制度教育施設 ・日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設（内科） ・日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関 ・日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練機関 ・日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 ・IMPELLA補助循環用ポンプカテーテル実施施設 ・経カテーテル心筋冷凍焼灼術認定施設 ・日本脳卒中学会一次脳卒中センター ・日本脳卒中学会一次脳卒中センターコア施設 ・日本アフェレシス学会認定施設 ・輸血機能評価認定制度(I&A)認証施設 ・日本膵臓学会認定指導施設 ・放射線科専門医総合修練機関 ・日本動脈硬化学会認定専門医認定教育施設 ・画像診断管理認証施設 ・日本感染症学会研修施設 ・日本血栓止血学会認定医制度認定施設 ・日本禁煙学会教育施設 ・日本脳ドック学会施設認定 ・日本緩和医療学会認定研修施設 ・日本放射線腫瘍学会認定施設 ・日本核医学専門教育病院 ・日本血液学会専門教育施設（小児科）

１２．大阪府済生会中津病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	·初期臨床研修制度研修指定病院（基幹型・協力型）です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·済生会中津病院専攻医として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ·ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医は 42 名在籍しています。 ·研修委員会 : 各内科系診療科の代表・臨床教育部部長などで構成され，基幹施設に設置されているプログラム管理委員会との連携を図ります。 ·研修委員会と臨床教育部で専攻医の研修状況を管理し、プログラムに沿った研修ができるよう調整します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·各診療科が参加している地域参加型のカンファレンスに専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちほぼ全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ·専門研修に必要な剖検（2017 年度 11 体，2018 年度 13 体、2019 年度 14 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ·倫理委員会を設置し、必要時に開催（2019 年度実績 5 回）しています。 ·治験審査委員会と臨床研究倫理審査委員会を設置し，審査会を開催（2019 年度実績 11 回、4 回）しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019 年度実績 7 演題）をしています。
指導責任者	長谷川　吉則 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪府済生会中津病院は、特別養護老人ホームや介護老人保健施設、訪問看護ステーションなどからなる済生会中津医療福祉センターの中核をなす 670 床の大型総合病院であり、平成 28 年に創立 100 周年を迎えました。当院は大阪市医療圏の北部地域の中心的な急性期病院として、地域の病診・病病連携の中核をなし、救急診療に力を注ぐ一方、地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟も併せ持っており、急性期から慢性期まで幅広い疾患の診療経験ができます。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になれるよう指導します。

指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 36 名、日本内科学会総合内科専門医 19 名、日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、日本糖尿病学会専門医 7 名、日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医 4 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 3 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名、日本老年医学会老年病専門医 2 名ほか
外来・入院患者数	外来患者(内科)15,656 名（1 ヶ月平均）　入院患者（内科）659 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度内科専門医教育病院、日本呼吸器学会認定医制度認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション学会認定研修施設、日本心血管カテーテル治療学会、日本消化器病学会認定医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本神経学会認定医制度教育施設、日本アレルギー学会認定準教育施設、日本血液学会認定研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定医制度認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門認定教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本肥満学会認定肥満症専門病院、日本感染症学会認定研修施設、日本老年医学会認定施設、日本認知症学会認定施設　など

１３．神鋼記念病院

1) 専攻医の環境 【整備基準 24】	·初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·神鋼記念病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（人事所管室職員担当）があります。 ·ハラスメント相談員が人事所管室に配置されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·近隣に契約保育所があり、利用可能です。
2) 専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	·日本内科学会指導医は 23 名在籍しています。 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（年 3 回程）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（神鋼記念病院地域連携講演会、東神戸総合内科講演会、東神戸臨床フォーラム、東神戸呼吸器疾患講演会、神鋼循環器セミナー、神鋼糖尿病セミナー、神戸膠原病腎臓カンファレンス、など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3) 診療経験の環境 【整備基準 24】	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、循環器、血液、膠原病、神経、代謝、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4) 学術活動の環境 【整備基準 24】	·総合医学研究センターを設立し、医学・医療の発展のために臨床医学研究を推進し、高度先進医療の支援や共同研究を行なっています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ·治験委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（年間 7～8 演題）をしています。
指導責任者	岩橋　正典
	【内科専攻医へのメッセージ】
	神鋼記念病院は、神戸の中心地に位置する急性期総合病院であるとともに、地域に根ざした第一線の病院でもあります。このことから臓器別の Subspecialty 領域（総合内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、血液内科、リウマチ膠原病内科、脳神経内科、糖尿病代謝内科、腫瘍内科、救急）に支えられた高度な急性期医療とコモンディジーズが同時に経験できます。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 23 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、 日本アレルギー学会専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、 日本肝臓学会専門医 2 名、感染症専門医 1 名ほか
外来・入院　患者数	延べ外来患者 18,977 名（1 ヶ月平均）　延べ入院患者 9,169 名（1 ヶ月平均）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本糖尿病学会認定教育施設Ⅱ、日本リウマチ学会教育施設、日本血液学会血液研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、アレルギー専門医教育研修施設、日本神経学会准教育施設、

１４.兵庫県立淡路医療センター

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・兵庫県会計年度任用職員（常勤医師）として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ・ハラスメント委員会が兵庫県立淡路医療センターに整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は13名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修・研究センター2019年度に設置. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024年度実績6回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2024年度実績8回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（淡路循環器病研究会，救急・集中治療セミナー，淡路医師会勉強会，消化器病症例検討会など；2023 年度実績 11 回，2024 年度実績 7 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025年度開催実績1回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます. ・専門研修に必要な剖検（2022年度実績11体，2023年度実績7体，2024年度実績10体）を行っています.
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2023年度実績6回，2024年度実績6回）しています. ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2024年度実績6回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022年度実績1演題，2024年度実績2演題）をしています.
指導責任者	**責任者名　奥田　正則** 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立淡路医療センターは，兵庫県淡路医療圏の中心的な急性期病院であり，淡路医療圏・近隣医療圏にある連携施設と協力して内科専門研修を行い，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します．主担当医として，入院から退院後〈初診・入院～退院・通院〉までの診断・治療の流れを通じて，社会的背景や療養環境調整も含めた全人的医療を実践できる内科専門医が到達目標です.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医14名 日本内科学会総合内科専門医12名

	日本消化器病学会指導医１名 日本消化器病学会消化器専門医３名 日本肝臓学会肝臓専門医１名 日本循環器学会循環器専門医 ９名 日本呼吸器学会指導医１名 日本呼吸器学会呼吸器専門医２名 日本心血管インターベンション学会専門医１名 日本神経学会指導医２名 日本神経学会神経内科専門医２名 日本老年医学会老年科指導医１名 日本老年医学会老年病専門医 １名 日本感染症学会感染症指導医１名 日本感染症学会感染症専門医１名 日本糖尿病学会糖尿病指導医１名 日本糖尿病学会糖尿病専門医１名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 293 名（内科系：１日平均） 入院患者 148 名（内科系：１日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる医療･地域医療･診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本血液学会専門研修教育施設 日本神経学会准教育施設 日本老年学会認定施設 日本脈管学会研修指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本認知症学会教育施設 日本集中治療医学会専門医研修施設

１５.高槻病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・愛仁会高槻病院常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（精神科医師担当）があります. ・ハラスメント委員会が管理科に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・病院に隣接して院内保育所があり利用可能です.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は16名在籍しています. ・愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，プログラム管理者ともに総合内科専門医かつ指導医：2016年度設置）　が連携施設に設置されている各研修委員会との連携を図ります. ・愛仁会高槻病院内において研修する専攻医の研修を管理する愛仁会高槻病院内科専門研修委員会は2016年度に設置され，愛仁会高槻病院臨床研修センター（全診療科）を中心に活動しています. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績医療倫理1回，医療安全2回，感染対策2回）し，専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2025年度実績8回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に愛仁会高槻病院臨床研修センター（2016年度設置）が対応します. ・特別連携施設（愛仁会しんあいクリニック・井上病院）の専門研修では，愛仁会高槻病院の指導医が面談・カンファレンスなどにより，その施設での研修指導管理を行います.
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70　疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます. ・専門研修に必要な剖検（24年度6件、23年度3件、22年度6件、21年度4件、20年度9件、19年度6件、18年度20体、17年度13体）を行っています.
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理審査委員会を設置し，迅速審査を開催（2023年度12回、2024年度12回、2025年度実績12回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計　3　演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	**中島　健爾** 【内科専攻医へのメッセージ】 愛仁会高槻病院内科専門研修プログラムは、大阪府三島医療圏の中心的な急性期病院である愛仁会高槻病院で豊富なコモンディジーズ・救急症例を中心に研修します。連携施設が多く、Subspecialty重視のコースも、総合内科的なコンピテンシーを強化したいコースも提供できます。　いずれも主担当医として入院から退院まで経時的に治療と療養環境調整の実践を修得し、今後の社会のニーズに合致したジェネラルなマインドを持った内科専門医の養成を目指しています。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16 名、日本内科学会総合内科専門医 16 名、 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本消化器内視鏡学会専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 11 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、 日本内分泌学会専門医　1 名、日本不整脈学会専門医　2 名　ほか
外来・入院患者数	年間入院患者実数　5,589 名、1 日平均外来患者数　337.8 名、 年間新外来患者数　4,478 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる医療･地域医療･診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本内分泌学会専門医制度認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会専門医教育研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本大腸肛門病学会関連施設認定 日本透析医学会専門医制度教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本肺癌学会教育認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

１６.淀川キリスト教病院

認定基準 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. 貸与されたタブレット端末を用いて電子ジャーナル検索がいつでもできます. ･淀川キリスト教病院常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルス推進課）があります. ･ハラスメント相談窓口およびハラスメント防止・対応マニュアルが淀川キリスト教病院グループ内に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています. ･敷地外に院内保育所があり、利用可能です. また院内で病児保育の利用も可能です.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 29 名在籍しています（下記）. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：総合内科専門医かつ指導医）にて, 基幹施設, 連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターが設置されています. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 7 回）し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 12 回）を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ･プログラム所属の全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回：受講者 9 名）を義務付けそのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ･専門研修に必要な剖検（2025 年度 5 体）を行っています.
認定基準 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室, 資料作成室などを整備しています. ･倫理委員会を設置し, 定期的に開催（2025 年度実績 11 回）しています. ･治験審査委員会を設置し, 定期的に開催（2025 年度実績 6 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 14 演題）をしています.
指導責任者	紙森　隆雄 【内科専攻医へのメッセージ】 内科専門医を目指す方々は専門研修にどのようなイメージを持っておられるでしょうか. 内科の基礎をしっかり学びたい方もいれば, 早く subspecialty 領域の力をつけて行きたい方もいるでしょう. 将来どの分野に進むにせよこの 3 年間は内科医の土台となる最も大事な時期です. 淀川キリスト教病院内科プログラムでは, 一人一人の希望も汲みつつ内科医としての実力を養うための専攻スケジュールを提供します. 当院は, 全人医療を理念とし, 幅広い診療科と高度な医療機器を備え, 大阪市北部・北摂地域の医療の中心的役割を担っている 581 床の急性期総合病院です. 年間 7000 件前後の救急搬送実績があります. 11 科からなる内科には, 将来希望する subspecialty に充実した指導医やスタッフが在籍しています. これらの総合力を活かした幅広く質の高い研修ができること, さらにそれぞれの内科で

	subspecialty との並行研修ができ，切れ目なく希望する専門内科に進めるというのが当プログラムの特長です. また，地域医療から高度先進医療まで様々なニーズに応えられる多くの病院と連携しています. プログラムでは，内科医に不可欠な知識や技能，態度，問題解決方法に加え，将来の目標に合わせた研修を自ら選択できるよう様々な配慮をしています．質の高い内科専門医を目指す研修医の皆様の参加をぜひお待ちしています.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 29 名，日本内科学会総合内科専門医 35 名， 日本消化器病学会消化器専門医 11 名，日本肝臓学会肝臓専門医 3 名， 日本循環器学会循環器専門医 7 名，日本内分泌学会専門医 4 名， 日本糖尿病学会専門医 4 名，日本腎臓病学会専門医 3 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名，日本血液学会認定血液専門医 3 名， 日本神経学会神経内科専門医 5 名，日本アレルギー学会専門医 6 名， 日本リウマチ学会専門医 2 名，がん薬物療法専門医 2 名， 日本感染症学会 1 名，日本消化器内視鏡学会専門医 12 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 10271 名（2025 年度平均延数／月） 新入院患者 512 名（2025 年度平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる医療・地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．急性期医療では集中治療室での超重症例の診療も可能です.
学会認定施設 （内科系）	内科専門研修プログラム基幹施設 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会専門医研修教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本緩和医療学会認定教育施設 など

１７.神戸市立医療センター西市民病院

認定基準 1)専攻医の環境	①研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ②地方独立行政法人神戸市民病院機構（以下、「機構」という）の任期付職員として労務環境が保障されています。 ③メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当職員・リエゾン担当看護師）があります。 ④ハラスメント委員会が機構内に整備されています。 ⑤女性専攻医が安心して勤務できるように、院内保育所、病児保育室、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ⑥利用可能な院内保育所があります。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	①指導医は21名在籍しています（下記）。 ②内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長），プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ③基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します ④医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績12回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ⑤研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ⑥CPC を定期的に開催（2025年度実績10回）し専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ⑦地域参加型のカンファレンス（2025年度実績27回）を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ⑧プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ⑨日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します ⑩特別連携施設の専門研修では，電話や週 1 回の西市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います
認定基準 3)診療経験の環境	①カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記） ②70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記） ③専門研修に必要な剖検（2023年度 10体、2024年度6体、2025年度12体 ）を行っています
認定基準 4)学術活動の環境	①臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています ②倫理委員会、倫理問題検討委員会を設置し定期的に開催しています ③治験委員会を設置し定期的に受託研究審査会を開催（2025年度実績12回）しています ④日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025年度実績3演題）をしています
指導責任者	**西尾　智尋** 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県神戸医療圏西部の中心的な急性期病院である神戸市立医療センター西市民病院を基幹施設として、兵庫県神戸市医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て兵庫県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として兵庫県全域を支える内科専門医の育成を行います。主担当医として，救急対応、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診

	断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 21 名、日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本肝臓学会専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本腎臓学会腎臓専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 3 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 8,247 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数） 入院患者 4,983 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数）　2025 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる医療・地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会準教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設など

１８.神戸医療センター

認定基準 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･神戸医療センター期間医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（事務部管理課担当）があります. ･ハラスメント委員会が神戸医療センターに整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室（予備の当直室を使用可、シャワーブース有）、当直室（シャワーブース有）が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	･日本内科学会指導医は18名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（内科系診療部長：総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と職員研修部を設置します. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績14回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2025年度実績4回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（須磨区臨床談話会；2025年度実績3回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（毎年1回開催）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します. ･特別連携施設（名谷病院）の専門研修では，電話や週1回の神戸医療センターでの面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも56以上の疾患群）について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2025年度4体、2024年度2体、2023年度4体、2022年度6体、2021年度5体、2020年度12体、2019年度実績13体、2018年度実績10体、2017年度実績12体、2016年度実績16体）を行っています.
認定基準 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025年度実績4回）しています. ･治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2025年度実績11回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025年度実績4演題、2024年度実績3演題、2023年度実績6演題、2022年度実績5演題、2021年度実績5演題、2020年度実績7演題、2019年度実績6演題、2018年度実績7演題、2017年度実績2演題、2016年度実績3演題）をしています.
指導責任者	三輪陽一 【内科専攻医へのメッセージ】 神戸医療センターは、兵庫県神戸市須磨区医療圏の中心的な急性期病院であり、

	連携施設として神戸大学医学部附属病院、国立病院機構兵庫中央病院、兵庫県立がんセンター、神戸市立医療センター西市民病院、神戸市立西神戸医療センター、社会医療法人愛仁会明石医療センター、社会医療法人愛仁会高槻病院、社会医療法人製鉄記念広畑病院、特別連携施設として名谷病院と施設群を形成して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医育成を目指します. 当センターは、総合病院としての機能を果たしながら、昭和 60 年から 38 年の長きにわたり、厚生省・臨床研修指定病院として多くの研修医を育ててきた実績のある病院であり、内科学会教育病院としての資格を有しています。Common disease から珍しい病気まで多くの症例を経験でき、最新の専門的医療・実技を習得してもらえる体制をとっています。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成に努めます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 18 名，日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本循環器学会専門医 8 名，日本呼吸器学会指導医 1 名 日本呼吸器学会専門医 3 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名 日本消化器病学会指導医 2 名，日本消化器病学会専門医 9 名 日本消化器内視鏡学会指導医 2 名，日本消化器内視鏡学会専門医 6 名 日本肝臓学会専門医 2 名，日本糖尿病学会専門医 1 名 日本内分泌学会専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 9,046.8（1 ヶ月平均）、入院患者 239.0 名／日　（2025 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる医療・地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本糖尿病学会教育関連施設認定施設 など

１９．公益財団法人日本生命済生会日本生命病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日本生命病院常勤医師としての労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床研修部及び総務人事グループ担当）があります。 ・ハラスメント相談窓口が設置されています。 ・女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は16 名在籍しています。(2023 年4 月現在) ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催 (2022 年度実績7 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(病病、病診連携カンファレンス)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医 JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち13 分野で定常的に専門研修が可能な 症例数を診療しています（上記)。 ・70 の疾患群のうちほとんどの疾患群について研修できます。(上記) ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	・倫理委員会および治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	橋本　久仁彦 【内科専攻医へのメッセージ】 日本生命病院は、「済生利民」を基本理念とする日本生命済生会が昭和 6 年に設立しました。現在では 28 診療科・9 診療センター、病床数 350 を擁する大阪西部地域 の基幹病院へと発展しており、予防から治療・在宅まで一貫した医療サービスの提供 を実践しています。急性期医療だけでなく慢性期医療や地域医療にも貢献し、全人的 医療を行うとともにリサーチマインドを持った内科専門医を育成します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医16 名、 日本内科学会総合内科専門医15 名、 日本消化器病学会消化器専門医7 名、 日本消化器内視鏡学会専門医7 名、 日本肝臓学会専門医4 名、 日本循環器学会専門医3 名、 日本高血圧学会専門医1 名、 日本糖尿病学会専門医3 名、 日本内分泌学会専門医2 名、 日本リウマチ学会専門医1 名、 日本呼吸器学会専門医4 名、 日本血液学会血液専門医3 名、

	日本神経学会専門医3 名、 日本腎臓学会専門医2 名、 日本透析医学会専門医2 名、 日本老年学会老年病専門医1 名 日本救急医学会救急科専門医1 名
外来・入院患者数	外来患者378 名（一日平均）　入院患者156 名（一日平均）（2022 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる医療・地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会専門医制度研修施設 日本胆道学会指導施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会専門医教育施設　日本血液学会専門研修認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設　日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定制度認定施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本造血細胞移植学会非血縁者間造血細胞移植認定施設（診療科） 日本認知症学会専門医制度教育施設 （2023 年4 月1 日現在）

２０．日立総合病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院である. ・施設内に研修に必要な図書やインターネット環境が整備されている. ・適切な労務環境が保証されている. ・メンタルストレスに適切に対処する部署がある. ・ハラスメント相談窓口がある. ・女性専攻医が安心して勤務できる更衣室などが配置されている. ・敷地内に保育施設が利用可能である.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 3 名以上在籍している. ・研修委員会がある. ・医療倫理, 医療安全, 感染対策講習会を定期的に開催し, その受講のための時間的余裕を与えている. ・CPC を定期的に開催し, その受講のための時間的余裕を与えている. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し, その受講のための時間的余裕を与えている. ・JMECC を定期的に開催し, その受講のための時間的余裕を与えている. ・施設実地調査に対応可能な体制がある.
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 7 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している. ・70 疾患群のうち 35 以上の疾患群について研修できる. ・専門施設に必要な剖検を適切に行っている.
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研究が可能な環境が整っている. ・倫理委員会が設置されている. ・治験センターが設置されている. ・日本内科学会地方会に年間で 3 演題以上の学会発表をしている.
指導責任者	副院長：鴨志田敏郎
指導医数 （常勤医）	指導医 21 名（総合内科専門医 18 名）
外来・入院患者数	外来患者：384 名/日、入院患者：200 名/日　※内科系診療科のみ
経験できる疾患群	消化器内科,循環器内科,内分泌内科,代謝内科,腎臓内科,呼吸器内科,血液内科,神経内科
経験できる技術・技能	・消化器内科：豊富な症例数を背景とした、初診から画像・病理診断まで含めた消化器診断学を学べます。内視鏡センターを持ち消化管出血や胆道感染・黄疸に対する緊急内視鏡や診断内視鏡、治療内視鏡をストレスなく多数経験できます。地域がんセンターに指定されており最新の抗がん剤治療を学べます。全国で 70 箇所の肝疾患連携拠点病院のひとつであり最新の肝疾患診療を学び治療を経験できます, ・循環器内科:虚血性心疾患、心不全および不整脈疾患などの救急対応, 急性期治療(緊急冠動脈カテーテル治療, 補助循環装置を用いた血液循環管理等)などを学ぶことができます, ・代謝内分泌内科:各種内分泌負荷試験、術前・ステロイド使用時の血糖コントロールなどを学べます, ・腎臓内科：腎生検、腎病理診断、AKI, CKD, 生活習慣病診療、透析アクセス造影、PTA、手術、維持透析管理、腹膜透析導入（手術）、維持、急性血液浄化治療を学べます, ・血液腫瘍内科：一般的な貧血から, 白血病, リンパ腫などの悪性疾患, 造血幹細胞移植まで幅広く学ぶことができます. 化学療法の他, 放射線療法も可能です, ・呼吸器内科：重症例を含む急性疾患への対応, および胸部悪性腫瘍のスクリーニング、診断から内科的治療、緩和医療まで包括的に学ぶことができます, ・神経内科：脳血管障害などの神経救急対応, 急性期治療, 神経難病の慢性期管理, リハビリテーションなどを学ぶことができます.

経験できる医療・地域医療・診療連携	・3 年間（内科・サブスペシャリティ混合タイプは年間（内科・サブスペシャリティ混合タイプは年間（内科・サブスペシャリティ混合タイプは 年間（内科・サブスペシャリティ混合タイプは 年間（内科・サブスペシャリティ混合タイプは 4 年間）の研修中 年間）の研修中 1 年間は基幹病院以外での研修を年間は基幹病院以外での研修を年間は基幹病院以外での研修を年間は基幹病院以外での研修を年間は基幹病院以外での研修を行う.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定内科専門医教育病院, 日本内科学会認定内科認定医教育病院, 日本消化器病学会認定医制度認定施設, 日本肝臓学会認定施設, 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設, 日本腎臓学会専門医制度研修施設, 日本呼吸器学会認定施設, 日本血液学会認定研修施設, 日本神経学会認定准教育施設, 日本消化器内視鏡学会認定指導施設, 日本老年医学会認定専門医制度認定施設, 日本臨床腫瘍学会認定施設, 日本消化管学会胃腸科指導施設, 日本心血管インターベンション治療学会認定施設, 日本心血管インターベンション治療学会研修施設, 日本透析医学会認定医制度教育関連施設, 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設, 気管支鏡専門医関連認定施設, 日本脳卒中学会認定研修教育病院.

２１．関西医科大学附属病院

認定基準 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（職員メンタルヘルス相談）があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	･常勤の指導医は51名在籍しています. ･連携施設として研修委員会を設置し，基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会を設置し，卒後臨床研修センターと協働してプログラムに沿った研修ができるように調整します. ･医療倫理・医療安全・感染対策の講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます（なお，2020年度はCOVID-19のため講習会のかわりにDVD視聴，eラーニングを行っていただきました）. ･CPCを定期的に開催（2024年度実績内科系5回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域13分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ･70疾患群のうち62疾患群程度について研修できます. ･専門研修に必要な剖検（2024年度10体）を行っています.
認定基準 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室を整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2024年度実績8回）しています.
指導責任者	長沼　誠（内科学第三講座教授） 【内科専攻医へのメッセージ】 関西医科大学附属病院は北河内二次医療圏において中心的な役割を持つ急性期病院です．幅広い症例を経験することにより，内科全般の知識を深めることができます．また，連携施設では急性期医療だけではなく，超高齢社会に対応し地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．特定のsubspecialtyを中心とする研修をおこなうことも可能です.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会認定内科医81名 日本内科学会総合内科専門医46名 日本消化器病学会消化器専門医28名 日本肝臓病学会専門医14名 日本循環器学会循環器専門医10名 日本腎臓学会腎臓専門医8名 日本内分泌学会内分泌専門医4名 日本糖尿病学会糖尿病専門医4名 日本呼吸器学会呼吸器専門医7名 日本血液学会血液専門医9名 日本神経学会神経内科専門医6名 日本リウマチ学会専門医6名 日本感染症学会専門医3名
外来・入院患者数	外来患者200,051名/年　入院患者6,629名/年
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群

	のうち，12 領域、62 疾患群程度の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる医療・地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本老年医学会認定施設日本消化器病学会認定施設日本循環器学会認定循環器専門医研修施設日本呼吸器学会認定施設日本血液学会認定血液研修施設日本腎臓学会認定研修施設日本リウマチ学会教育施設日本透析医学会教育関連施設日本神経学会認定研修施設日本アレルギー学会専門医研修施設日本救急医学会指導医指定施設日本呼吸器内視鏡学会認定施設日本臨床腫瘍学会研修施設日本消化器内視鏡学会指導施設日本糖尿病学会認定教育病院日本高血圧学会専門医認定施設日本消化管学会胃腸科指導施設日本肝臓学会認定施設日本食道学会全国登録認定施設日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設日本感染症学会研修施設日本期間食道学会専門医研修施設日本肥満学会認定肥満症専門病院日本内分泌学会認定教育病院日本甲状腺学会認定施設日本心療内科学会認定専門医研修施設日本不整脈学会・日本心電図学会認定不整脈専門医研修施設

3）専門研修特別連携施設

1. 兵庫県災害医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･神戸赤十字病院と同一敷地内棟続きです. ･高度救命救急センターです. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･神戸赤十字病院常勤嘱託医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する心療内科医師は併設の神戸赤十字病院に常勤医として勤務しており適時対応をしています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･同一敷地内棟続きの神戸赤十字病院に指導医が 11 名在籍しています. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･神戸赤十字病院と合同で医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･神戸赤十字病院と合同で研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･神戸赤十字病院と合同で CPC を定期的に開催（2014 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･神戸赤十字病院と合同で地域参加型のカンファレンス（2014 年度実績　HAT 呼吸器疾患検討会 2 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，救急，循環器，神経の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています．外科系救急疾患も診療します.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	神戸赤十字病院と合同で日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 15 演題）をしています.
指導責任者	石原　諭　センター長 【内科専攻医へのメッセージ】 　兵庫県災害医療センターは救急疾患の専門病院であり，連携施設として救急，循環器，神経疾患の診断と治療の基礎から，より専門的医療を研修できます．循環器に関しては急性期の虚血性疾患や大動脈疾患を対応できます．神経疾患に関しては，急性期脳梗塞や脳出血などの疾患に関して経験できます．また専門医療のみではなく，主担当医として，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています.
指導医数 （常勤医）	日本救急医学会救急専門医　12 名，日本救急医学会救急指導医　3 名 専門医機構救急科指導医（予定）7 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名， 内科学会認定医 1 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 19.6 名（1 ヶ月平均）　入院患者 71.8 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて，研修手帳（疾患群項目表）にある救急領域の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．特に救急領域においては，より高度な専門技術も習得することができます
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した，地域に根ざした医療，病診・病院連携など

診療連携	を経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本救急医学科指導医指定施設，救急科専門医指定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院，日本循環器学会教育関連施設など

2. 多可赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・病院敷地内の医師官舎を使用できます。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日常生活を含めた研修生活に相談・対応する部署（総務課）があります。 ・同一敷地内に患者があるため、休憩、更衣、シャワーなどができます。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・神戸赤十字病院と連携し、時間的余裕を与えます。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・総合診療、訪問診療、行政・介護事業所とのカンファレンス等、医療・介護連携の実際を経験することができます。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・医師会、西脇病院等近隣の病院が主催する学術集会に参加することができます。
指導責任者	梶本　和宏院長 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、長閑な山間農村に位置していますが、人口の高齢化に伴い、複合した疾患や介護・生活問題を同時に抱えている患者さんが少なくありません。そのため当院の医療方針を次のように定め、地域内の医院、介護施設、行政、社会福祉協議会などと日常的な連携を図り、地域の総合力を発揮して包括的な医療を推進しています。 ◆医療・ケアの一体的提供により、「老後に至るまで住みなれた居宅・地域で安心して住み続けることができる」包括的な医療・ケアを担う ◆地域完結医療・ケア体制の構築のために、近隣医療機関・介護施設等の総合力を発揮した医療・ケアを推進する。 ◆院内各種専門職間で包括医療・ケアの共通認識を醸成し、入院から在宅療養に至るまで一貫した医療・ケアの提供を推進する 「地域（包括）医療は、住民生活に身近に関わりながら住民の生老病死とそれに伴う生活問題について、①医療を行い、②ケア（健康づくりも含めて）に関わる専門職・社会資源と連携・協働し、③生存の質を高めるための住民地自身の実践を育成・支援し、④そのことを通して地域づくりにも関わる医療でなければならない、と思っています。 様々な専門職、施設、行政の役割などについての幅広い理解を有した内科専門医となるべく、当院ならではの有意義な研修を受けられることを期待します。
指導医数（常勤医）	2 名
外来・入院患者数	外来患者１４０名（1ヶ月平均）　入院患者　９０名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	・患者とのファーストコンタクトの場となる地域密着型病院として、あらゆる疾患群の診療を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した，地域に根ざした医療，病診・病院連携など実践的なへき地医療を経験できます.
学会認定施設 （内科系）	

神戸赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会

（令和８年３月現在）

神戸赤十字病院

土井　智文　（プログラム統括責任者、内科分野責任者）
杉本　啓介　（プログラム管理者、呼吸器内科分野責任者）
白坂　大輔　（プログラム管理者、消化器内科分野責任者）
川島　邦博　（プログラム管理委員会委員長、代謝・内分泌分野責任者）
五十嵐　宣明（循環器内科分野責任者）
本岡　里英子（脳神経内科分野責任者）
村上　典子　（メンタルケア担当者）
松本　ゆかり（看護部長）　辻本　純子　（薬剤部長）
金髙　茂弘　（検査部技師長）浅妻　厚　（放射線部技師長）
髙本　浩路　（リハビリテーション課長）　宮武　和弘　（事務局）

連携施設担当委員

神戸大学附属病院	小林　隆
姫路赤十字病院	向原　直木
加古川中央市民病院	西澤　昭彦
神戸労災病院	佐藤　稔
甲南医療センター	大久保　英明
岡山赤十字病院	佐久川　亮
川崎医科大学総合医療センター	瀧川　奈義夫
NHO 岡山医療センター	万波　智彦
千船病院	尾崎　正憲
宝塚市立病院	宮島　透
神鋼記念病院	岩橋　正典
北播磨総合医療センター	安友　佳朗
大阪済生会中津病院	山村　亮介
兵庫県立淡路医療センター	山下　宗一郎
愛仁会高槻病院	中島　健爾
淀川キリスト教病院	岩田　幸代
神戸市立医療センター西市民病院	西尾　智尋
神戸医療センター	三輪　陽一
日本生命病院	橋本　久仁彦
日立総合病院	鴨志田　敏郎
関西医科大学附属病院	長沼　誠
兵庫県災害医療センター	石原　　諭
多可赤十字病院	西村　一男
兵庫中央病院	二村　直伸

整備基準 44 に対応

神戸赤十字病院内科専門研修プログラム　専攻医研修マニュアル

1）専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
② 内科系救急医療の専門医
③ 病院での総合内科（Generality）の専門医
④ 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

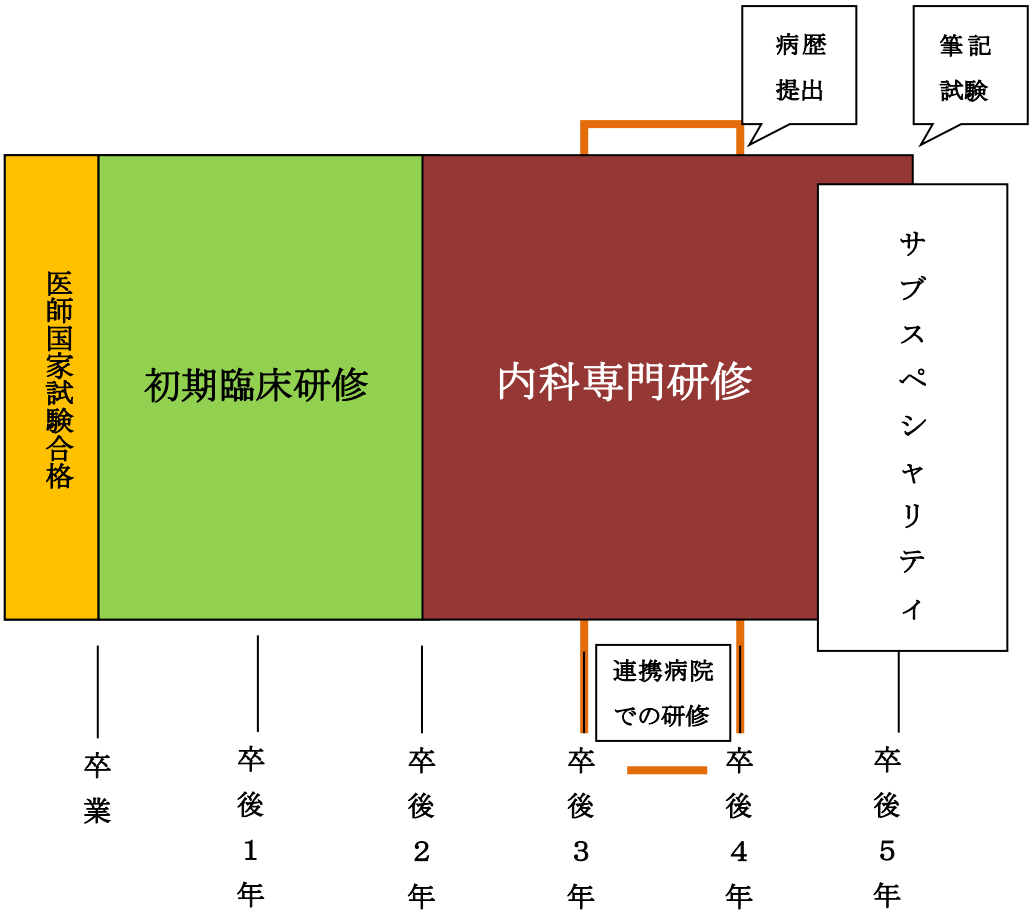
神戸赤十字病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。

そして、兵庫県神戸市医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

神戸赤十字病院内科専門研修プログラム終了後には，神戸赤十字病院内科施設群専門研修施設群（下記）だけでなく、専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する、または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です。

内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

神戸赤十字病院内科専門研修プログラム概念図



基幹施設である神戸赤十字病院内科で、１年目の専門研修（専攻医）を行い、2 年目に連携施設、特別連携施設にて専門研修を行います。

専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）3 年目の研修施設を調整し決定します．病歴提出を終える専門研修（専攻医）２年目の１年間，連携施設で研修をします（図 1）．連携施設での研修になりますので、連絡、情報を密に行う予定です（勉強会を兼ねて集まっていただくなど）。なお，研修達成度によっては 3 年目に Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）。

2） 研修施設群の各施設名 （P.17「神戸赤十字病院研修施設群」参照）

基幹施設：神戸赤十字病院

連携施設：神戸大学附属病院、姫路赤十字病院、加古川中央市民病院、神戸労災病院、甲南医療センター、岡山赤十字病院、川崎医科大学総合医療センター、NHO 岡山医療センター、千船病院、宝塚市立病院、北播磨総合医療センター大阪済生会中津病院、神鋼記念病院、兵庫県立淡路医療センター、高槻病院淀川キリスト教病院、神戸市立医療センター西市民病院、神戸医療センター、日本生命病院、日立総合病院、関西医科大学附属病院

特別連携施設：兵庫県災害医療センター、多可赤十字病院、兵庫中央病院

3）プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名

神戸赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（P. 66「神戸赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

氏名	所属	職責
土井智文	神戸赤十字病院	副院長
杉本啓介	神戸赤十字病院	部長
白坂大輔	神戸赤十字病院	部長
川島邦博	神戸赤十字病院	部長
五十嵐宣明	神戸赤十字病院	部長
村上典子	神戸赤十字病院	部長
本岡　里英子	神戸赤十字病院	部長
黒田浩平	神戸赤十字病院	副部長
佐藤　淳哉	神戸赤十字病院	副部長
惠良有紀子	神戸赤十字病院	副部長

4）各施設での研修内容と期間

専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）3 年目の研修施設を調整し決定します。専門研修（専攻医）2 年目の 1 年間、連携施設で研修をします（図 1)。

5）本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である神戸赤十字病院診療科別診療実績を以下の表に示します。神戸赤十字病院は地域基幹病院であり、コモンディジーズを中心に診療しています。

2025 年度実績	入院患者実数（人/年度）	外来延患者数（延人数/年度）
消化器内科	1,908	19,493
循環器内科	1,235	19,711
糖尿病代謝内科	内科に含む	内科に含む
呼吸器内科	471	7,220
神経内科	124	1,934
内科	390	6,281

※代謝，神経内科領域の入院患者は少なめですが、連携病院の研修で、外来患者診療を含め、1 学年 6 名に対し十分な症例を経験可能です。アレルギー疾患は呼吸器内科、救急領域の研修で経験可能です。

※9 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（P.17「神戸赤十字病院内科専門研修施設群」参照)。

6）※剖検体数は 2016 年 12 体、2017 年 12 体、2018 年 10 体、2019 年 7 体、2020 年 4 体、2021 年 10 体、2022 年 5 体、2023 年 7 体、2024 年 4 体、2025 年 6 体です。

7）年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

Subspecialty 領域に拘泥せず，内科として入院患者を順次主担当医として担当します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
入院患者担当の目安（基幹施設：神戸赤十字病院での一例）
当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受持ちます。
専攻医 1 人あたりの受持ち患者数は、受持ち患者の重症度などを加味して、担当指導医、Subspecialty 上級医の判断で 5～10 名程度を受持ちます。感染症、総合内科分野は、適宜、領域横断的に受持ちます。

	専攻医１年目	専攻医２年目 （主に連携施設にて）	専攻医３年目
4 月	循環器（当院）	血液（院外）	予備・特別連携（災害）
5 月	循環器（当院）	血液（院外）	予備・特別連携（災害）
6 月	循環器（当院）	血液（院外）	予備・特別連携（災害）
7 月	消化器（当院）	腎臓・膠原病（院外）	予備・subspecialty
8 月	消化器（当院）	腎臓・膠原病（院外）	予備・subspecialty
9 月	消化器（当院）	腎臓・膠原病（院外）	予備・subspecialty
10 月	内科・呼吸器（当院）	内分泌・感染症（院外）	予備・subspecialty
11 月	内科・呼吸器（当院）	内分泌・感染症（院外）	予備・subspecialty
12 月	内科・呼吸器（当院）	内分泌・感染症（院外）	予備・subspecialty
1 月	神経（当院）	地域研修（院外）	予備・subspecialty
2 月	神経（当院）	地域研修（院外）	予備・subspecialty
3 月	神経（当院）	地域研修（院外）	予備・subspecialty

※1 年目の 4 月に循環器領域で入院した患者を退院するまで主担当医として診療にあたります。7 月には退院していない循環器領域の患者とともに消化器領域で入院した患者を退院するまで主担当医として診療にあたります。これを繰り返して内科領域の患者を分け隔てなく、主担当医として診療します。

8）自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期
毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。必要に応じて臨時に行うことがあります。
評価終了後、1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け、その後の改善を期して最善をつくします。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医からのフィードバックを受け、さらに改善するように最善をつくします。

9）プログラム修了の基準
① 日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて，以下の ⅰ)～ⅵ)の修了要件を満たすこと。
i）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。修了認定には、主担当医として通算

で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録済みです（P. 75 別表 1「神戸赤十字病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

ii）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されています。

iii）学会発表あるいは論文発表を筆頭者で 2 件以上あります。

iv）JMECC 受講歴が 1 回あります。

v）医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があります。vi）日本内科学会専攻医登録評価システムを用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性があると認められます。

② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを神戸赤十字病院内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し、研修期間修了約 1 か月前に神戸赤十字病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は 3 年間（原則基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長することがあります。

10）専門医申請にむけての手順

①必要な書類

i）日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書　　ii）履歴書

iii）神戸赤十字病院内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

②提出方法

内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します.

③内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで，日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります.

11）プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇

待遇については、研修中は神戸赤十字病院での待遇基準に従う。

12）プログラムの特色

① 本プログラムは、兵庫県神戸市医療圏の中心的な急性期病院である神戸赤十字病院を基幹施設として、兵庫県神戸市医療圏、近隣医療圏、北播磨医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は原則として基幹施設 2 年間＋連携施設・特別連携施設 1 年間の 3 年間です。

② 神戸赤十字病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

③ 基幹施設である神戸赤十字病院は、兵庫県神戸市医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

④ 基幹施設である神戸赤十字病院での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P. 75 別表 1「神戸赤十字病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

⑤ 神戸赤十字病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 2 年目の 1 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。

⑥ 基幹施設である神戸赤十字病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします（P. 75 別表 1「神戸赤十字病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を主担当医として経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。

13）継続した Subspecialty 領域の研修の可否

・カリキュラムの知識，技術・技能を深めるために、総合
・内科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科検査を担当します。結果として、Subspecialty 領域の研修につながることはあります。
・カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

14）逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年 8 月と 2 月とに行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧し、集計結果に基づき、神戸赤十字病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

15）研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

16）その他

特になし

整備基準 45 に対応

神戸赤十字病院内科専門研修プログラム　指導医マニュアル

1）専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

・1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人が神戸赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会により決定されます。
・担当指導医は，専攻医が web にて日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
・担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について都度、評価・承認します。
・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し, 専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
・担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。

2）専門研修の期間

・年次到達目標は、P. 75 別表 1「神戸赤十字病院内科専門研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」について」に示すとおりです。
・担当指導医は臨床研修センターと協働して、3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
・担当指導医は臨床研修センターと協働して、6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
・担当指導医は臨床研修センターと協働して、6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
・担当指導医は臨床研修センターと協働して、毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的に指導します。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って改善を促します。

3）専門研修の期間

・担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価を行います。
・研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
・主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に研修手帳 Web 版での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

4）日本内科学会専攻医登録評価システムの利用方法

・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
・担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
・専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
・専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します．担当指導医と臨床研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
・担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5）逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システムを用いた指導医の指導状況把握

専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システムを用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、神戸赤十字病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6）指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて，臨時（毎年 8 月と 2 月とに予定の他に）で、日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に神戸赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます．状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います.

7）プログラムならびに各施設における指導医の待遇

神戸赤十字病院給与規定によります.

8）FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。
指導者研修（FD）の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システムを用います。

9）日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を熟読し，形成的に指導します。

10）研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

11）その他

特になし

別表 1　各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	※5 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ（高齢者	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計※5		70疾患群	56疾患群 （任意選択含む）	45疾患群 （任意選択含む）	20疾患群	29症例 （外来は最大7）※3
症例数※5		200以上 （外来は最大20）	160以上 （外来は最大16）	120以上	60以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが、他に異なる 15 疾患群の経験を加えて、合計 56 疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例)「内分泌」2 例+「代謝」1 例、「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる.

別表 2

神戸赤十字病院内科専門研修　　週間スケジュール（例）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土日曜日
8:00	カンファレンス	カンファレンス	院内セミナー	カンファレンス	カンファレンス	
午前	入院患者診療	外来	検査	検査	外来	当直
	検査	入院患者診療		検査	外来	オンコール
午後	入院患者診療	検査	救急外来	検査	検査	
	入院患者診療	検査	救急外来	入院患者診療	入院患者診療	
夕	カンファレンス		抄読会	研修医勉強会		

★神戸赤十字病院内科専門研修プログラム４．専門知識・専門技能の習得計画に従い、内科専門研修を実践します。

・上記はあくまでも例：概略です。

・内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。

・入院患者診療には、内科と各診療科（Subspecialty)などの入院患者の診療を含みます。

・日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科（Subspecialty)の当番として担当します。

・地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。